

輸送動向について(平成20年10月分)

平成20年11月

1. 輸送概況

今月は、名古屋臨海高速鉄道名古屋駅構内における旅客列車脱線事故により、高速貨18本、専貨6本が運休した。

荷動きについては、世界同時株安、円高を契機とした景気の減速感が強まり、製造業の減産体制が拡大するなど、月間を通し極めて低調に推移した。

品目別に見ると、コンテナ貨物は、農産品・青果物、家電・情報機器などが前年を上回ったものの、紙・パルプ、化学工業品、積合せ貨物などが前年を下回り、全体では前年比98.7%となった。農産品・青果物は北海道地区の野菜類が引き続き強勢な出荷となった。一方、紙・パルプは一部メーカーの工場閉鎖及び消費低迷による減産体制の拡大により、大きく減送となった。また、化学工業品は自動車産業をはじめとする国内需要の低迷の影響を受け、減送となった。

車扱貨物は、石油、セメント・石灰石などすべての品目が前年を下回り、全体では前年比78.5%となった。特に、石油は消費の減退及び価格変動を見越した買い控えのほか、燃料転換の進展もあり、大きく減送となった。

2. 輸送実績

(単位:千トン、%)

種別 扱別	月 計		前年比	年度累計		前年比
	本年実績	前年実績		本年実績	前年実績	
コンテナ	2,130	2,158	98.7%	13,685	13,411	102.0%
車 扱	867	1,104	78.5%	5,905	6,790	87.0%

3. 品目別輸送実績表

(単位:千トン、%)

扱 別	品 目	本年実績	前年実績	増減	前年比
コンテナ	農産品・青果物	297	286	11	103.8%
	化学工業品	193	200	-7	96.5%
	化学薬品	144	147	-3	98.0%
	食料工業品	292	290	2	100.7%
	紙・パルプ	303	331	-28	91.5%
	他工業品	162	160	2	101.3%
	積合せ貨物	232	240	-8	96.7%
	自動車部品	79	77	2	102.6%
	家電・情報機器	40	34	6	117.6%
	エコ関連物資	33	32	1	103.1%
	その他	355	361	-6	98.3%
	コンテナ計	2,130	2,158	-28	98.7%
車 扱	石油	522	700	-178	74.5%
	セメント・石灰石	128	140	-12	91.0%
	車 両	110	128	-18	85.8%
	その他	107	135	-28	79.7%
	車扱計	867	1,104	-237	78.5%

(車扱の品目別輸送量は社線発送トン数も含む数値、本年は速報値、前年は確報値)